



時評

路政僧

ち普く人類の福祉を益さむ、ミ、聖慮の程長しとも畏し、曠古の盛典に遭遇したる吾等國民は、光輝ある我が國體の特質に榮し、身力を碎盡して天與の職責を完ふし以て國運の隆昌に力め、此尊き國體を永遠に擁護し以て世界平和を指導することこそ、吾等國民の義務。

▽ ▲

天皇陛下、即位の大禮を行はせられ、皇祖の神靈に御親告あると共に、下國民に對し四海に君臨し給ふことを宣示せらる、建國以來三千載、皇統連綿たる皇基の不易は、我が國體の精華にして萬邦に誇るべきもの、此光輝あ

る皇位を繼承し給へる陛下に對し奉り、國民は寶祚の無窮ミ聖壽の萬歳を祈ると共に此御代に處するには特に國民の一大覺悟を必要とするを痛感す。大禮の勅語に曰く、内は則ち教化を醇厚にし愈民心の和會を致し、益國運の隆昌を進めむことを念ひ、外は則ち國交を親善にし、永く世界の和平を保

▽ ▲

世界和平の勅語を拜するのとき、折角着手した日支交渉準備決裂を傳ふ、遺憾極りなし、支那の要求、漢口南京乃至濟南事件ミ條約改訂問題ミを總括して解決せむとし、此交渉前に日本の山東駐屯軍の撤退を求むミ、併しながら協約は双方行爲、之が成立には當事

者間誠意の連鎖を必要とす、國民政府維持の爲に國內暴論に迎合し、乃至は英米兩國の對支親善態度に強味を得て、我に臨むに排日の慣用手段を以て脅す如きは、いかに支那人誇大性の發露とせば言へ、誠意を缺いた舊式驅引外交に可言、完成途上の支那國家、いかに強がつても高が知れてゐる、自國の價值と、大自然が結合せしめた、日支兩國の前途を想つて覺醒するが可い、我は支那が迷夢より覺むる迄相手にせぬこと。

併し我國の態度も亦慎むべきもの、蓋し從來の排日運動が其の目標を換へて國際平等の待遇を要求するに至つたことに在る、換言すれば國際平等の原則に依つて通商條約の改訂を認めるに

非ずんば日本を排すに爲すに至つた。

從て我國の對支政策の確立には、形式や面目論に先つて排日に依る我が經濟的損失を考慮するのが急務、然るに何ぞ測らむ、商人出身の久原遞相、突如對支問題を以て憲政一新會と妥協し曾て大隈内閣時代に故加藤伯の採つた以上の強硬態度を以て滿洲問題を解決せんとすと言ふ、夫れが内閣不統一乃至政友會内不統一、等々この區々たる内部鬭争は別として、内政乃至内閣維持の爲に對支策を犠牲に供したるもの、吾れ斷じて之を不許、蓋し眼前に排日運動を眺めながら、列國環視の眼前に於て、時代の國際的情勢を無視して徒に強硬論を唱るが如き、支那の強がりの態度を撰ぶところなし、之が爲に却つ

て支那に排日の口實を與ふる必定、此結果に對して如何なる責を負擔せむとするか。

知るべし、日本は先進國なることを、完成途上の支那を指導するの雅量あるを要す、徒に強硬論を唱へて永遠の日支關係を錯雜ならしむる如きは彼我相互の不得策、戒むべきこと。



支那問題を中心に日英提携乃至は同盟論擡頭す、支那に於ける兩國の權益は他列國の比ではない、從て兩者が提携協調して對支策を決定するのは頗る結構、併しながら之を策するには往時の歴史を追懷して英國の近時を觀るが可い、想起せよ、日英同盟條約の滿期

に方つて更新を欲せなかつたのは英國であつた筈、事は大正十年の近時に屬す、國民は之を忘れてはならぬ、併かも夫れが英國の米國に對する氣兼ねに動機した、此過去の經過を念頭にし、英

の近時を見給へ、ジュネーヴに於ける日英米三國軍縮會議決裂後に於ける英米兩國の態度を、一は英佛海軍協定を以て米國を抑へむとし、他は世界大戰

記念日に於て巡洋艦の増建は米國當然の權利なりと叫び、短的に評せば、英米兩國は世界和平を裝つて軍備擴張の

競争に耽る、此時に方り日英同盟還元論の起る所以は智者を俟つ迄もなく察知すべきのみ、兩國の競争に測杖を喰

ふ如きは眞平御免を蒙るが可い、況んや英國が出し抜きの對支重要問題を

解決したる今日に於て、提携するも同盟するも其の效果や知るべきのみ、現内閣に、自主的外交を望むや切。



京都を中心に行はれた政界の策動、

政友會と憲政一新會との情意投合、乃至は新黨俱樂部との妥協、等々、舊式政治家の暗中策動、御大典舉行の聖

地に於て陰謀を排す云ふなどは野暮の骨頂、二大政黨の對立を謳歌して見たり排したりする新黨俱樂部やら生臭坊主に、政治的良心を求むるのは要求

する方が誤。今の政治家に理想を言ふのは蛙の面に水の類。

政友會にしても衆議院に過半数を占めない爲の惱、何事も御大典終了迄

期限を附して抑へて來た黨内外の諸問題、今や夫れを解決すべき決算期を爲つた、政治の理想論なきを考へてゐる暇がない、議會切抜け策を考へなければならぬ、そこで考へ附いたのが以上

の二愚策、當らなければ久原一人の罪、當れば政友會の成效を推算してやつた迄の事、政友會幹部を出し抜いた

仕業と騒いで見ても、夫れが政權維持の爲になれば、直に反對論の撤回を爲る、淺間しいとも淺ましい。

馬鹿を見たのは民政黨、政界の第二黨と自ら野黨の中堅と言つてはゐるが、見捨てられた憲政一新會乃至新黨

俱樂部の行動に右顧左眈の醜態、遂に世の同情を失つた、假令政友會の切崩しが許すべからざる業にしても、世は

政府與黨の切崩しに戦々恟々たる民政
黨の現狀を憫笑するだけのこゝこ、大隈
侯の政治理想に反するにしても、近く
所謂早稻田系も離脱する必然、民政黨
に自主獨往の覺悟を望むや切。

此く觀來れば各政黨の醜狀唾棄すべ
きものゝみ、併しこゝの茲に至れる
は、各黨も政治上に定見を有せざる
に因る、眞の政策を持せずして唯だ頭
數を揃ふるこゝに腐心するに因る、政
界の革正、政策を以て雌雄を決するに
在る、之が實現、夫れ何れの時なるか。

△ △

東京市の疑獄、起訴された市會議員
三十餘名、議員定數の三割七分が忌む
べき罪名の下に收容された譯、其の背

後に策動し若は手先き爲つた代議士

―實業家―市吏員、何れも司直の手に
取調べらる、これが爲に帝都の市政は
暗黒の體、併し是等の徒輩が市政から
排せられてゐる今は、百鬼夜行の感あ
りし市政も却つて眞正に非ざるかを懷
はしむ、市政改革の爲にする市會解散
論も亦可、併しながら殘餘の市會議員
が自發的に市會を改造するこゝこ、眞に
自治の本旨に適合するものぞ可言、之
を實現せむとする者、夫れ幾人かあ
る。

此自治制腐敗の事實を眼前にして、

政友會の強調する地方自治權の擴張論
を想ふこゝき、之も亦實情の調査審議に
基かざる空莫たる擴張論ならざるかを
疑ふ、如何。

△ △

物議の種であつた乗合自動車の主管
省問題、行政制度審議會の決定通り鐵
道省の所管に確定、併し道路に關係あ
る範圍に於ては尙内務省の所管に屬す
こゝ、道路を離れて自動車の經濟的價値
を擧ぐるこゝは出來ない筈、結局、内
務一省の所管であつた事項に鐵道省が
嘴を入れる、こゝこ、爲つた譯、之で行政
系統を整調し事務の簡捷を期したりこゝ
爲すか、餘りに事物の實際に迂遠なる
政府當局を憫む。